

(様式2)

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	岡林 春雄 (おかばやし はるお)	所属	山梨大学教育人間科学部
研究集会等名称	社団法人日本心理学会・ダイナミカルシステム研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 27 名 (うち認定心理士 1 名) 非会員 4 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>実施内容： 日本心理学会第73回大会 (立命館大学、8月27日) において、 WS085 「認知と行為は相互作用しながら発達する —エンボディド・スキル・ダイナミクス—」</p> <p>を実施。山本 裕二氏 (名古屋大学) から「身体運動の発達や学習においては、自由度問題 (身体に内在する多自由度の冗長性をいかに制御するか) を解決するため、自由度を凍結し、制御を容易にした後、自由度を段階的に解放し、より洗練された運動パターンを獲得するのではないか。つまり、少数要素の自己組織化から、自由度の解放にともない、要素を増加させながら、自己組織化を繰り返すことになるのではないか」という問題提起から、幼児の身体運動の発達の例として、ブランコ漕ぎをとりあげ、認知と行為の齟齬を解消しながら身体化していく技能の獲得過程を示す話題提供を受けた。その話題提供を基に、身体運動自体は物理則に従うが、意志や意図といった認知過程はその物理則とは独立しているため、解放された自由度の制御過程において認知と行為の齟齬が生まれ、その齟齬を解消し、自らの身体を通して、人間 (この場合は、幼児) は物理則と経験則をつなぐ—すなわち、学習と発達—を行っていることが議論された。また、データ解析の方法についても意見交換を行った。指定討論者は、千野直仁氏 (愛知学院大学)、中川正宣氏 (東京工業大学)、河合優年氏 (武庫川女子大学教育研究所) であり、参加者は延べ40人であった。</p> <p>成果： 上記ワークショップは、心身相関という観点からしても人間の発達を考える際、重要な意味をもっている。ダイナミカルシステムという観点が発達を考える際、ぜひとも必要な知見となるであろう。 また、上記ワークショップ以外にも研究会メンバーは2度の会合をもち、さらに、学習会を開き、ダイナミカルシステム理論の向上に努めている。</p>		

<研究会会計報告：2009 年度>

提出日：2010 年 3 月 11 日

研究会番号：研 09001

研究会名：社団法人日本心理学会ダイナミカルシステム研究会

助成金額：100,000 円

(A) 会議費

学習会 ¥22,100 2009 年 7 月 27 日 (於 甲府)
「幼児の発達：心の理論とダイナミカルシステム」
幼稚園担当者等、15 名参加

ワークショップ

打合せ ¥2,730 2009 年 8 月 27 日 (於 京都)
話題提供者、指定討論者等 5 名参加

研究会方針

打合せ ¥34,000 2009 年 8 月 27 日 (於 京都)
ワークショップ総括と今後の展望
13 名参加

(小計) ¥58,830

(注 上記金額にはアルコール代金は含まれていない)

(B) 通信費

国内、海外のダイナミカルシステム関連者と連絡を
取り合うため (力学系、nonlinear 関連)
29 件

(小計) ¥31,350

(C) その他

J R 券代 ¥7,980 打合せのため
資料費 ¥1,600 DS に関連する一般雑誌等 3 点
文具 ¥ 260 封筒

(小計) ¥9,840

(総計) ¥100,020

注 領収書添付

以上。